

視覚支援センターだより

千葉県立千葉盲学校 視覚支援センター 平成30年12月21日発行

障害理解授業

視覚支援センターでは、通級による指導の一環として、各児童生徒の在籍校で障害理解授業を行っています。障害理解授業では、自分の使っている単眼鏡、ルーペ、書見台、拡大教科書等について、使い方やどんな時に使うかを友達の前で発表し、その後、学級の児童にそれぞれ使う体験をしてもらっています。学級の児童の理解を図るだけでなく、自分の使っている補助具を紹介することで自分の障害についての理解を深めることを目的としています。



先日も木更津市の小学校に伺い、障害理解授業を行いました。初めて単眼鏡を学校に持って行くにあたり、授業をしてほしいという担任と保護者からの依頼があり実施しました。学級の児童に体験した感想を聞くと「いつも使っている道具がわかった」「とてもよく見えて便利だと思った」などと発表してくれました。本人はみんなに知ってもらって安心したようで、翌日から張り切って単眼鏡を持っていったそうです。単眼鏡の練習も意欲的になり、ピント合わせがとても速くなりました。

学級で補助具を使うのにためらいがある、「それ何って聞かれたらどうしよう」などの不安がある方などは是非やってみてはいかがでしょうか。希望がある方は通級担当にお知らせください。



視覚障害教育に関する研修会

視覚支援センターでは、視覚障害教育に関する研修会の講師を派遣しています。今年度は12月末までに、県内6カ所で行いました。研修会の参加者は、弱視児童の担任、養護教諭、特別支援コーディネーターなど様々です。

研修の内容は、視機能について、見えにくさに対する支援方法についてなどで、視野狭窄や白濁、低視力のシミュレーションレンズを使って見えにくさの体験等もしてもらっています。

細かい線は見えにくいことや、視野が狭いと視界に入る情報量が少ないため、大きすぎる文字は読みにくいことなどを、実感をもって理解してもらっています。一人でも多くの教員に視覚障害教育を知ってもらい、見えにくくて困っている児童生徒への支援を広げていきたいと考えています。



第2回 eye あいねっと



11月15日(木)に千葉聾学校を会場に「eye あいねっと」を実施しました。今回は「医療機関との連携について」をテーマに取り上げました。今回は千葉県こども病院眼科以外に松戸市立総合医療センター眼科、地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院眼科、地方独立行政法人さんむ医療セ

ンター眼科、国保直営総合病院君津中央病院眼科、医療法人鉄蕉会亀田総合病院眼科の医師や視能訓練士の先生方にも参加していただきました。はじめに、千葉県こども病院眼科と国保直営総合病院君津中央病院眼科から本校との連携について発表していただきました。その後、4つの地域グループに分かれて協議しました。協議の内容は、①各地域での医療機関との連携について、②見え方相談会から支援が広がった事例と今後の展望、③その他(各地域での課題など)です。参加者から「医療との連携について、今回をスタートとして積み重ね、現場レベルでの実際の連携となるように頑張っていきたい。」「他市の医療との連携の仕方や普段の相談の様子を聞くことができ良かった。また、就学時の学校への情報提供でも医療との連携協力は不可欠であり、質問させていただいたことへの答えは大変参考になった。」「作業療法士や理学療法士等リハビリは連携が取れているが、眼科的にはまだまだだと感じた。ロービジョン外来等視能訓練でも何かできることがありそう。」といった声が寄せられました。今後も視覚障害教育のセンター的機能を発揮するために、県内各地域で教育機関と医療機関との連携の推進に向けて取り組みたいと思います。